

# ふくしまの

## 歴史めぐり



その二十二  
龍馬暗殺に深いかかわり  
のあった会津藩

### 龍馬暗殺の指揮をとっていた 会津藩士の出・佐々木唯三郎

坂本龍馬の「船中八策」と呼ばれる提言をきく撰組の近藤勇とその配下につけて、慶応3年大政奉還が実施され、264年にわたる江戸幕府に終止符が打たれました。龍馬の喜びもつかの間、1カ月後、龍馬と中岡慎太郎は突然数人の暴漢に襲われ、暗殺されたのです。



紺野義行さん。福島市在住の郷土史研究会。福島県歴史の案内人「ふくしま100の会」会長。NPO法人の代表も務める。福島学院大学の元学長・故下平尾勲さんの指導をもとに、地域文化振興活動を行っている。

その二十二

京都守護職の厳重な統制下にある、いわば親衛警察組織。守護職の命令がない限り、試し斬りをするようなこととはもちろん許されていなかっただけです。

命令を下す立場の京都守護職は、松平容保。供述書によれば、刺客は7人。中でもその指揮をとっていたのは佐々木唯三郎でした。彼は実は、会津藩士の出です。

唯三郎は藩で与力の家柄だった佐々木家の三男。江戸へ出て、旗本の佐々木矢太夫の養子になりました。また、彼の実兄・手代木直右衛門は京都常話公用人。彼が弟に龍馬暗殺の命令内容を伝えたとも考えられています。

直右衛門と唯三郎はほかの幕臣と違い、会津藩の子弟教育を受けています。同藩は思想藩で、江戸初期の藩祖・松平(保科)正之が濃厚な思想的体質を持ち主でした。会津松平家を創設した時、彼は自分の思想をもって藩法と藩風と藩士教育のすべてを律し、藩の憲法とも言つべき家訓十五条を定めました。この家訓は、江戸期を通じて会津藩士にとつて絶対のもの。当たり前なことでも説かれていたが、第一条が異様でした。諸藩の藩士における武士の忠義というのは、主に直接のあ



昭和62年、完全復元された会津藩校日新館

るし、藩主を対象とするのに対し、会津藩は藩主を飛び越して將軍に忠誠を尽くすという内容です。今年小学校の教科書に、会津藩校日新館の「什(じゅう)の掟(おきて)」が取り上げられ、「ならぬものはならぬ」に代表される教えが全国に紹介されます。教育のあり方が問題視され、自由主義重視の戦後教育により人心は荒廃しています。教育、人づくりはすべての柱。どのような形で会津の教えが再び現代に生きるのか楽しみです。